



専門・認定薬剤師取得支援  
次世代リーダー養成  
履修証明プログラム

# 京都薬科大学 Lehmann プログラム



## 履修生募集案内

募集要項  
シラバス  
日程表



<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/support/lehmann.php>



履修期間：1年



総履修時間：70 時間程度



開催形式：対面＋オンライン



スクーリング：年間 8 回  
(土曜・日曜に開催)

# Lehmann プログラムとは

京都薬科大学では、科学を基盤とした学び直しの機会を提供し、円滑な医療推進、健康維持に貢献することを目指した社会人向けの年間カリキュラムとして Lehmann プログラムを展開しています。

本プログラムは、論文作成能力や症例報告書作成能力のほか、リーダーに必要な素養を身に付けることで、専門・認定薬剤師資格の取得をサポートするとともに、将来の薬学領域におけるリーダーを育成することを目的とした履修証明プログラムです。

## 期待される効果

### Academic Skills

症例報告書や学術論文を作成するにあたり必要となる論文検索法や統計学など学ぶことにより、**EBM (Evidence-Based Medicine)** を実践できる力をつけることができる。

### Logical Thinking

自身が日常で扱う症例を薬学的視点から考察・深掘し、症例報告書などへアウトプットする経験を得ることで、論理的思考力を身につけることができる。

### Leadership

アカデミックスキルや論理的思考力に加え、リーダーシップ論やコーチング、AI や ICT の活用などを学ぶことで、リーダーとしての素養を身につけることができる。

## 目標に応じた3つのコースを展開

1コース修了後、別コースに継続履修することも可能

### 論文作成コース

論文作成の基礎を理解し、論理的な論文を執筆できる技能を学ぶ。

### 研究計画・実践コース

研究計画の基礎を理解し、適切な研究計画を立て、実践する技能を学ぶとともに、研究成果を学会等で発表する方法を学ぶ。

### 症例報告書作成コース

薬学的視点に基づいた症例解析や症例報告書作成の基本事項を学び、症例報告書を作成できる技能を学ぶ。



## 多様な教養科目でリーダーに必要な素養を養成

薬学領域におけるリーダー養成基礎科目

科学的根拠に基づいた医療 (EBM)

医療を支える基礎薬学

医療を支える統計学

多様化する医療に対する医療人養成



多岐にわたる「共通科目」を通してリーダーに必要な素養や基礎知識、その応用方法について学んでいただきます。

# 年間カリキュラム

総時間数	授業形態	授業数等	内容
年間 約 70 時間	スクーリング	4 講義	リーダーシップ論 (1)、(2) AI・ICT 活用 医療と芸術
		16 演習	論文検索術概論 論文評価概論 医療を支える薬学的アセスメント コーチング概論 統計解析の実践 ジャーナルクラブ (1) ~ (3) 他
		症例・データ検討会	成果発表 (中間)【8月】 成果発表 (最終)【2月】
	e-learning	23 講義	プレゼンテーション概論 (1)、(2) 研究デザイン概論 医療ビッグデータの活用 倫理審査概論 他
	個別指導	コース別専門科目	症例報告書作成 (1) ~ (6) 研究計画 (1) ~ (3)、研究報告 (1) ~ (3) 論文作成 (1) ~ (6)

## プログラム特徴

講義 (e-learning) + 演習 (スクーリング) で体系的に学びを定着

履修生一人ひとりに指導教員を配置

オンラインを活用した指導教員によるきめ細やかな指導

*Pick up*

### 丁寧な個別指導と双方向からの対話を重視し学びに深みを

各履修生に指導教員 (メンター) を配置し、オンライン会議ツール等を使った個別対応で、個々のペースに合わせた丁寧な指導を行っています。スクーリングでは、グループ討議を交えながら学びを深めることを重視。年 2 回の症例・データ検討会では、外部からの参加者も交え、多様な観点からの質疑に対応することで、考察を深める機会につなげています。



論文を読むことへの抵抗が少なくなった。

病院薬剤師や薬局薬剤師など、置かれた環境が異なる薬剤師が参加しており、異なる視点からの意見を聞くことで刺激が得られた。

プログラムを通じて知り合った仲間は、現在でも交流があり、情報交換が必要な際に活かせるネットワークとなっている。

受講後、近隣クリニックから質問を受ける事が増えた。恐らく服薬指導を通じて、良い印象が医師に伝わったためだと考えられる。また、社内で学術担当として、様々な業務に携わる機会も増えた。

自施設内において、みんなで論文を読む会やお互いの症例に意見をし合う会を開くなど、組織全体で自己啓発に取り組むようになった。

医薬品の添付文書を確認するだけでなく、添付文書のエビデンスにまでさかのぼることが要求されるため、この過程を繰り返しながら、なぜ効くか、どれくらい効いたか、症状回復の期待値など、患者さんごとの見立てを積み上げていく習慣が身についた。



## 募集要項（抜粋）

募集人数	症例報告書作成コース 20名程度 研究計画・実践コース 若干名 論文作成コース 若干名
履修対象	(ア) 原則、6年制薬学部を卒業した者 ※症例報告書作成コースのみ (イ) 薬剤師国家資格を有する者 (ウ) 現在もしくは近い将来に、専門・認定薬剤師の取得を目指している者 (エ) 自宅でインターネットを使用できる環境にあり、「Word」「Excel」「PowerPoint」など、基本的なPCソフトを問題なく使用できる者 (オ) 本学の指定する日にスクーリングに参加できる者
入学金・受講料等	入学金：10,000円 受講料：150,000円 事務手数料：500円

